

The Voice 声

日本バプテスト・バイブル・フェローシップ

2024年2月1日 発行

目次

巻頭メッセージ..... 齋藤光彦	1
あかしの広場..... 澤 清嗣	3
フェローシップ 北から南から ..	6
JBBFニュース.....	12

巻頭メッセージ

「互いに愛する」
佐倉聖書バプテスト教会牧師

齋藤^{てるひこ}光彦

この世では争いが絶えません。毎日のニュースでは様々な事件や事故が報道されています。その多くは互いに愛することよりも憎むことが現れています。しかし、この世にあって私たちキリスト者が互いに愛するべきことをヨハネの手紙第一3章13~24節から教えられたことを記します。

使徒ヨハネは「兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。兄弟を憎む

者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。」(Iヨハネ3:13~15)と記しています。イエス様を信じ救われた者は、イエス様がこの世から憎まれたようにイエス様に従う者も憎まれるのです。私たちは兄弟を愛している故に死から永遠のいのちに移ったことを知るので。

兄弟を憎む者は心の中で人殺しをしているのです。イエス様は言われました「兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会で引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。」(マタイ 5:22)。人を憎む心の思いと語ることは、人を殺すことがあるからです。他者の人格を尊重することが大切です。「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」(ピリピ2:3)

兄弟を愛しているその愛はイエス様が

十字架で、すべての人の罪のために身代わりとなられ十字架で死なれた愛です。

「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」(Iヨハネ 3:16)。イエス様の愛を知り、その愛を受けた者は兄弟に対して愛を与えていくべきなのです。私たちが生きることに必要なものを必要とする人に分かち合うことも含まれます。イエス様の愛を知っていながら、兄弟が困っているのを見ても、他人事として見て見ぬふりをする者に神の愛がとどまっていると言えるのでしょうか。私たちがことばを語るだけでなく、行いと真実をもって愛しましょうと勧めています。

「もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、あなたがたのうちだれかが、その人たちに、『安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい』と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。」(ヤコブ 2:15~16)。

行いと真実をもって兄弟を愛するなら、私たちは、自分がイエス様にいることを確信し、神様の御前に心安らかにされる

のです。私たちの思いや行動の中にも罪の影響が出てしまいます。それに対して自分の心が責めても神様は私たちを理解してください。「たとい自分の心が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。」(Iヨハネ 3:20)。それ故に神様の御前に出ることができるのです。

「愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るのです。」(Iヨハネ 3:21~24)。

私たちがイエス・キリストを自分の救い主と信じ受け入れ、神の子供とされ、互いに愛し合うことによって、私たちが祈り求めるものは何でも神様からいただくことが出来ると約束されています。イエス様を信じ、互いに愛し合うことは神様の喜ばれることです。それは、みことば

に従っていることです。神様は、みことばに聞き従う者の祈りを聞いてくださいます。その祈りは神様のみこころにかなったことを求めるのです。なぜなら常に神様を中心に考え行動しているならば自分の欲望のために願い求めることはないからです。

私たちが互いに愛し合うことによって、一致が生まれ、共に喜びが与えられ、イエス様の弟子であることが示されます。それを出来るようにしてくださるのは御霊の働きです。神様に感謝し御名をほめたたえます。

あかしの広場

「地域に奉仕する教会」

瀬戸内聖書バプテスト教会牧師

澤 清嗣

「瀬戸内市で市民権を得よう」、これが昨年掲げた教会のビジョンでした。常にこれを意識し、いくつもの課題と向き合いつつ、みことばを伺い、祈り合いながら歩ませていただきました。今回、「地域に奉仕する教会」として歩み始め、教会で分かち合われてきたことの一部を紙面をお借りしてお証しすることができればと願っています。

ところで地域と教会を結ぶもの、地域と教会の接点は「ひと」です。教会と社

会、地域、家庭、学校との接点は、「あなた自身である」ということです。教会の使命と健全さは「福音宣教」と共に「福音に生きる」という両方が、健康的に機能していることです。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」（マルコ 16:15）とは、弟子たちに与えられた、宣教命令です。同時にパウロは「福音のためにあらゆることをしている」（I コリント 9:23）と語っています。伝え受けた福音の恵みをもって、その福音の豊かさに生き続けていくという使命です。案外、「福音宣教」と「福音に生きる」という、どちらかだけに偏ってしまう傾向があります。両方もが、健康的に機能しているか、吟味することが大切です。

瀬戸内教会は、今から3年半前、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が最初に出された頃に、新会堂建設に取り組ませていただき、3月に献堂礼拝をお捧げいたしました。その時に、《会堂に関する10の勧め》を作り会衆に公示しました。その中の一文にこうあります。「会堂は宣教の使命を与えられておらず、宣教するのは私たち信者です」と。会堂が福音を語る場所であり、福音を聞ききっかけとなる場所であり、また福音によって生まれ変わる場所となることはあっても、会堂という非人格的な看板が宣教をするわけではないという意味を込めて掲げました。会堂に集まるクリスチャン兄弟姉妹たち皆が、看板娘であり、看板息子なのです。

なぜ今こども食堂を…

「みなしごの父、やもめのためのさばき人は、聖なる住まいにおられる神。神は孤独な者を家に住ませ、捕らわれ人を歓喜の歌声とともに導き出される。」(詩篇 68:5~6)

こども食堂「いちわのすずめ」が開始されたのは、2022年12月10日です。クリスマス間近に開催することは大きなチャレンジでしたが、振り返ればベストな時でした。なぜならば、最も高貴なる主が、最も小さなひとりのために、最も低くなってこの世に来られたクリスマスの意味を、より深く味わうことになったからです。詩篇 68 篇はイスラエルの民をエジプトから導き出された神の御力を讃える歌と言われます。神はその御力を「みなしご」「やもめ」のために行使なさる方。ダビデは出エジプトの出来事を振り返り、今を眺め、将来を展望しつつここに着目しています。神は、孤児の父であり、やもめの守護者です。聖書は一貫して、そのような神を啓示しています。やがて父なる神は御子を十字架につける程の愛を私たちに明らかにしてくださいました。こども食堂を始めた動機があるとすれば、この神が与えてくださる愛と言うより他ありません。

厚生労働省によると、生まれ育った環境によって、栄養バランスのとれた食事が出来ない子どもたちの割合が、18歳未満で13.5% (2018年データ)、7人に1人が貧困状態にあると言われています。

それが背景にあつてか、現在、全国に9,131のこども食堂があり(2023年12月時点)、年間100万人以上が利用しています。これほど社会のニーズが浮き彫りになって来ている昨今、にもかかわらず、瀬戸内市には、当時一か所も開催していないのが現状でした(現在5か所、一部不定期開催)。「自治体に任せればいい」「教会は教会にしかできないことをすべきだ」と声上がることも承知の上で、私たちは「教会こそが率先してしよう」と取り組みを始めました。教会の大きな奉仕は福音宣教であり、同時に、福音に生きる使命を抱いていたのですから。やもめたちへの「毎日の配給」(使徒 6:1)もその一つでした。それはもしかしたら教会内部の事情であったかもしれませんが、それらがみことばの奉仕と並行する中で、「こうして、神のことばはますます広まって」(同 6:7)行ったという初代教会の記録には大きな励まし、慰めをいただきます。

「いちわのすずめ」に込めた思い

こども食堂に「いちわのすずめ」と名前をつけました。イエス様は「五羽の雀が、二アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でも、神の御前で忘れられてはいません。」(ルカ 12:6)と語られました。雀は、当時の庶民が極めて安価で手に入れやすい食肉でした。市場では、雀二羽は一アサリオン。五羽なら二アサリオンでした。計算すれ

ば四羽で二アサリオンのはずです。つまり一羽はおまけです。そんなおまけ程度の雀の一羽にも、天の父なる神のまなざしが注がれているのです。ましてこの私が神の愛の対象であり、比類なき価値を私に置いておられるとは、何と有難いことでしょうか。それは人間的にどう考えても、正当な扱いではありません。そうとすれば、それは「おまけ」ではなく「恵み」です。この神の愛を忘れない、そして一人でも多くの人と分かち合おう、そんな思いが「いちわのすずめ」という名前に込められています。“かけがえのない「ひとり」をいつくしみ、忘れない”これが私たちの活動の指針です。

地域と地域の人々のために「キリスト・イエスに仕える」

新約聖書で「仕える」とか「奉仕する」という言葉は、「ディアコニア」と言います。もともと食事を運ぶという意味です。この奉仕するという言葉の本来の姿を、はからずも実践しているのが、こども食堂の奉仕なのです。この活動の中で、もっとも大切なこととして、分かち合われたのは、この活動をしながら、キリストに仕えているのだ、という理解です。パウロは「異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となったからです」（ローマ 15:16）と語っています。「異邦人に仕えている」とは言っていません。「異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となった」と言っている点です。私た

ちも地域と地域の人々のために奉仕しているのですが、本来的には、地域の人々のために「キリスト・イエスに仕え」ているのです。キリストにお仕えするように、地域に仕える。これが、福音を語り、福音に生きるための、私たちの奉仕です。今は、こども食堂の利用者であるこどもたちや親御さんが、毎週のように、土曜日、日曜日の礼拝やこども集会に出席し、そこを居場所としています。ご婦人のひとりは、信仰告白へと導かれました。「かえりみられる主」の愛に、感謝が溢れます。

非人格的な関わりではなく人格的関わりを

心したいのは、非人格的なシステムに頼りたくなることがあります。トラクトを配布していたら伝道をしている気になるとか、会堂建設をしたら教会建設をした気になるとか。でもそれだけが評価され、そこにコミットする奉仕であるとするれば、それはとても淋しいことだと思います。もっともっと、人格的な信頼関係、それもひとりの人のためであったとしても、その人に向かって、例えば共に食事をしたり、腹を割って語り合ったり、一緒に地域の活動をしたりと、実生活の中で自然に隣人と真摯に向き合うことを大切にしたいものです。福音宣教と福音に生きる「地域に奉仕する教会」として。

フェローシップ

☆☆☆☆☆☆

北から 南から

横浜 BBC

つくばへの派遣終了

2016年につくばに派遣された宣教牧師(山宮)としての働きを、2023年末をもって終了しました。7年間の奉仕は、豊かな主のお恵みに満たされ、城山団地からの脱出、会堂の建設、後継者の導き、独立。以上4つのビジョンのすべてが満たされ2021年5月に独立する事が許され、2024年初頭から横浜教会へ戻りました。

今後は、働きの許される限り宣教牧師として、主にお仕えしたく願っています。多くの方々のご加禱感謝します。有難う御座いました。(山宮利忠)

平塚 BBC

昨年1月末に始まった会堂のフルリフォーム工事が、9ヶ月以上かかって献堂式(11/11)の数日前にようやく完了しました。献堂式には約70名の先生方や平塚教会にゆかりのある兄弟姉妹が出席されて喜びと感謝を共有しましたが、ながら同窓会のような賑わいでした。諸教会の皆様のお祈りを心からいたします。

甘木 BBC

私どもが甘木聖書バプテスト教会に赴任して、この九月で25年となります。その間、外部奉仕に遣わされた以外、一度も休むことなく主の日の礼拝を導かせていただきましたこと、諸教会の先生がた、愛児姉たちの祈りの賜物と、心より感謝

申し上げます。

小さな働きではありますが、当地で主にご奉仕できること、喜びをもって感謝しています。クリスマスにはイルミネーション点灯式をはじめ、数か所でベル、オカリナ、コーラスの音楽プレゼント奉仕をさせていただきました。

また、書き連ねてきた週報のメッセージの送付を通して、全国の視覚障がい者の信仰生活を支える奉仕の道が開かれていることにも感謝しています。

節目を迎えるこの秋までに、働きの継承について、先生がたのご指導をいただきたく願っていますので、どうぞ、お祈り、ご指導をよろしくお願いいたします。

琉球 BBC



琉球聖書バプテスト教会は1980年又吉夫妻が神学校卒業して来て本格的に開拓伝道を始めてから、5年後の1985年に教会組織をしました。それから今年の9月で38年になります。特別な活動をしているわけではありませんが、それぞれが、学校や職場で主と共に働き、主のみわざを体験しながら証しが行われてきました。写真は今年の元旦礼拝の集合写真です。残念ながら元旦礼拝に参加したものの早退した一家族と、一人の兄弟、

又参加できなかった一家族と二人の兄弟姉妹。計10名の兄弟姉妹が集合写真からかけていますが、写真に写っている兄弟姉妹が現在の琉球教会のメンバーです。

琉球教会での特別なことと言えば、主がなしてくださった兄弟姉妹への恵みを毎週聞けることです。証しには、本人が失敗したことや、取り返しがつかないことをしてしまったと思えることが証しされますが、そのすべてが主のみ言葉通りに、益となる結果となり、主の守りと祝福が真実であることを、聞いている兄弟姉妹全員が実感でき、主の御名を崇め、全員で主を賛美しています。

特別なことのあと一つは、第二、第四の祈祷会において兄弟たちが、交互にメッセージを担当してくれていることです。テキストの選択も、メッセージの内容も、全くの兄弟たち任せです。5分で終わるときもあれば、20分ほど語る場合もあります。ただメッセージの仕方は教えていませんので、彼らが語った後、牧師が補足と修正とを加える必要がありますが、いずれにしても主に恵まれるひとときであることは確かですので、主に感謝を捧げています。



二枚目の写真は平安教会のクリスマス会の写真です。主に祝福された集会であ

ったようです。堺師が琉球教会の派遣宣教師となられてから4年、堺宣教師や平安教会にもたらされる祝福や恵みのみわざの多くを琉球教会は聞いてきました。特に林姉妹との結婚を通して主の素晴らしさを私たちは聞くことができました。

林姉妹の最初の旦那さんが、末期癌で入院し、その後脳梗塞を発症したため、医師からは「もう目を覚ますことはない、もし目を覚ましたとしても、会話をすることは出来ないでしょう。」と告げられたようです。しかし主はご主人が会話出来るような状態で目を覚まさせて下さったようです。その時林姉妹はご主人の救いを強く願うようになり、導いて下さる牧師を探し始めたようです。通訳の人でもよかったと思うのですか、なぜか林姉妹は、「日本人の牧師でなければだめだ」ということに心が捉えられてしまい、日本人の牧師を探し続け、その当時台湾の高雄にいた一人だけの日本人宣教師となっていた、堺宣教師に導かれました。

「もう目を覚ますことはない」と告げられても、林姉妹と姉妹の二人の子供は回復を祈り続けました。堺師もその家族のために祈り続けました。主はその家族に恵みを注ぎ、その後御主人は目を開けました。そして堺師に導かれ神の子として誕生しました。その後約一週間、林姉妹とご主人と二人の子供たちは心を合わせ、毎日のように家族礼拝を行ったと聞いています。堺師はそのすべてを導かれました。ハレルヤ！主の御名はほむべきかな！

しかし、主のみわざを見たものの、長年共に歩んできた御主人が主の元に引き上げられたとき林姉妹に暗黒が訪れました。姉妹はほとんど何もできず、毎日のように平安教会の集会場に来て、ただ十字架の前に座しひたすら祈り続けられたようです。三週間ほどその状態が続いた後、堺師の導きを通し、また主の恵みに力を与えられた林姉妹は主に従って立ち上がり、平安教会で主の働きを行うようになりました。その後の教会での林姉妹の働きや、他の姉妹方へのアドバイスは、以前から伝道者であったのかと堺師が思ってしまうほどのものであったようです。

その後、主の導きを受けた堺師と林姉妹は夫婦となる決意をし結婚をしました。二人が結婚すると、林姉妹は堺師が長年続けてきた山地伝道にも、刑務所伝道にも参加するようになりました。台湾生まれ、台湾育ちの姉妹の言動はやはり台湾の方々には好印象で親しみやすかったようです。特に刑務所伝道では林姉妹が長年行ってきた幼稚園教育の指導者としての賜物が発揮され、やむを得ず刑務所で暮らすようになった方々の導きに大いに役立ったようです。林姉妹が加わったことで、刑務所での集会が大きくかわり、参加している方々に笑顔も見られるようになり、そして一人の女性の方が主イエスを受け入れ神の子として誕生しました。林姉妹が共に伝道するようになって、堺師の働きはさらに祝福へと拡大しています。

教会の外で働きだけでなく、二人が結婚すると。平安教会の一人の姉妹が「やっとう願いできます。」とその姉妹の母親の病床訪問をお願いしてこられたようです。堺師の中国語を、林姉妹が台湾語に通訳し、病床にあるその姉妹の母親は、主イエスを救い主として受け入れました。本当に主のみわざには素晴らしいものがあります。

琉球聖書バプテスト教会も、平安聖書バプテスト教会も、ひたむきに主と共に歩んで行きます。お祈りに覚えていただければ感謝です。

美浜バイブルバプテスト

礼拝は牧師を含めて一人の姉妹と捧げている。ともに八十代 ヨハネの手紙から

クリスマスは五人 新来を祈っている。

船橋 BBC

いつも主にあるお交わりありがとうございます。柏伝道所の三澤先生が病を得て2度の入院の中でいのちを守られ1月末に退院する予定です。今後の伝道所の守りと導き、また退院後の三澤先生夫妻のためにお祈りお願いします。

3月末のジュニアキャンプの主催奉仕の準備が本格化しています。以前のような宿泊によるキャンプを久しぶりに開きます。大勢の参加者が導かれ、祝された集まりとなるようにお祈りお願いします。説教者の長江牧師のためにもお祈りお願いします。

豊橋ひかり BBC

一昨年、マニラ南部で働くミンケ牧師と友人となり、日本宣教を志しておられるので、受け入れ教会となることを決めた。在留資格認定を取るために奔走し申請書提出に漕ぎつけたが、本国からのサポートが重要視されると聞いたので、難しいと思っていたが、12月に取得できたので驚いた。フィリピンのバプテスト教会が日本に派遣する宣教師夫妻の第一号ではと思われる。

ミンケ師の友人で、すでに日本宣教デピュテーション中のエバスコ師とも友人となった。助けになりたいと祈ると、23年夏に関東地区を視察したいと希望されたので、仲介役を担った。6教会を訪問、1牧師と会談できた。訪問、滞在させていただいた諸教会と個人の皆さま、お世話をいただきありがとうございました。

初めてJBBFの理事に選出された。選挙制度が特別に大変更されたからで、一挙4人の新人理事誕生となった。とても多くを学び、困難の中で主の支えを覚えている。JBBFは改革が必要と考えている。

習志野 BC

2023年11月3日に創立60周年を迎えました。記念礼拝で講師の先生から、ピリピ2:1~16より、「イエス・キリストの福音宣教を継承する教会の3つの特徴」を教えてくださいました。

- I. 福音に相応しく生きる教会(1-4節)
(一致を目指す教会)

II. イエス様の模範に従う教会(5-11節)

III. 世の光として輝き続ける教会(12-16a節)

上記のような教会を目指して61年の歩みをスタートしました。小学生、中学生、高校生、専門学校生、大学生、どの日曜学校クラスも、少人数なので、交わり会、1日キャンプ、お楽しみイベントがあり、参加が可能でしたら、ご案内ください。

今年の年間聖句は、マタイの福音書16:15「イエスは彼らに言われた。『あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。』」です。主の恵みによって2024年の終わりを迎える時、教会に集っているそれぞれが、「私にとってイエス様は〇〇のお方です」と感謝の証ができるように願っています。

新しい教会を生み出す教会となれるよう、御言葉によってそれぞれが養われ、御霊に満たされ、イエス様の福音を証できるように祈っています。今年もお交わりとお祈りを宜しくお願い致します。

稲毛 BBC

主は稲毛聖書バプテスト教会を祝福してくださっています。長い間、私たちは50人以上の人々が救われるように祈ってきました。2023年2月と8月中旬から新たに2家族がそれぞれ教会に通い始め、日曜学校と主日礼拝に参加されています。11月に、二人の方が主を救い主として受け入れました。5日の主日礼拝の後、Yさんを主に導く機会があり、その後11月の後半には、彼女の娘さんも主を救い

主として受け入れました。

12月の主の降誕をお祝いする時も、主は祝福してくださいました。3日の午後集会では子どもクリスマス会を久しぶりに開催し、8人の子どもたち(3歳児を含む)が参加しました。子どもたちだけでなく、教会員や子どもたちの親など、大人も大勢参加しました。初めて家族4人で来られた方もいました。当教会で奉仕している神学生が、この子どもクリスマス会を計画し、主の降誕についてよく教えてくれました。

24日の主日礼拝では、初めて当教会に来られた6人家族を含め、久しぶりの方達も含め多くの方々を迎え、会堂には空席があまり無いほどでした。教会の姉妹たちは、今回も様々な手作りクッキーを小さな袋に詰めて準備し、親睦室の2つのテーブルに並べてくれました。礼拝の後、皆は2階の親睦室に招かれ、プレゼントとして用意された各種のクッキーを1袋ずつ持ち帰りました。

当教会の主日礼拝に2年近く出席している3名の年長者がいらっしゃいます。ご夫妻と80代半ばの婦人で、昨年9月から12月の初めまでそのご夫妻はご主人の仕事関係の研修のため、礼拝にほとんど出席できませんでした。このご夫妻はこれまでずっともう一人の婦人を送迎してくださっていました。

まだとても暑かった9月にも、このご婦人は「バーリー先生は一生懸命説教の準備してくださっているのだから、それ

を聞きに行かないのは失礼です。」と言って、自宅から教会まで約1時間かけて歩いて通っていました。教会からの帰りは、礼拝に出席していた他の方がご自宅まで車で送ってくれました。また、別のご夫婦も教会まで彼女を乗せてくれると申し出てくれました。でもほとんどの日曜日、この婦人は1時間歩いて出席されました。

N兄(博士号を持ち、専門分野で三冊のマニュアルを執筆した)は現在80歳で、音楽の素養はありませんでしたが、以前日曜日の午後集会で賛美のリーダーをしていました。そして現在では、より複雑なプログラムである主日礼拝で賛美のリーダーを務めてくれるようになりました。彼が礼拝の讚美のリーダーとして奉仕してくれるのは感謝なことであり、この奉仕で主に仕える一員であることを彼も喜んでいきます。これらの年長の信者たちの忠実さについて、主を賛美します。

現在の当教会の日曜学校の学びと説教についてお伝えします。日曜学校では、イスラエル王国の分裂についての学びを始めました。そして主日礼拝では使徒行伝(現在は使徒行伝13章)を通して説教し、午後集会ではナホム書の学びを終えてゼパニヤ書の学びを始めました。水曜日の「聖書の学びと祈り会」では第一ペテロ5章を学んでいます。

2024年も主が御言葉をもって祝福してください、日本の多くの魂が救われますように。

金沢 BBC

2024年元日夕に令和6年能登半島地震に見舞われました。能登半島は本当に壊滅状態に陥りました。また、金沢教会も震度5強の揺れに見舞われ、自然に対して恐れを覚え、神のお力に畏怖の念を覚えました。それ以上に主にある諸教会の先生を始め兄弟姉妹方の心遣い、祈りの支援に、おおいに心を強くさせていただきました。心から感謝申し上げます。

日本海側のJBBFの諸教会は、先生方家族、そして教会に集われる方々、会堂も大きな損傷がありませんでした。射水市の歌の森聖書バプテスト教会会堂に亀裂が入りました。会堂の診断を待っています。また、教会に集っておられる兄弟の中には、被害にあわれた兄弟、親せきの方々が多くおられたようです。その方々のために祈り、対応を模索しております。このような時こそ、主のみこころを求め、冬期修養会を通して、主への信頼を深めるべきと受け止めております。今年の修養会は、テーマ『私にとっての聖書とは』、聖句ペテロ第一の手紙2章2節です。講師は、港北聖書バプテスト教会の高田春義師先生です。

いつでも、どんな時でもみことばを聞く教会でありたいと願うのです。

幕張 BBC

幕張教会では今年も2月を宣教月間とし、特別集会を計画しています。11日には仁戸名教会の小林秀夫先生、18日には立川教会の井口拓志先生を説教者として

お迎えし、それぞれ「伝える喜び」、「ささげる喜び」をテーマにみことばを語っていただく予定です。また11日の午後は幕張教会と仁戸名教会の合同賛美集会を計画しています。それぞれの教会の聖歌隊の賛美と共に、教会学校や家族などのグループ賛美がささげられます。家族や友人をお招きしやすい集会になればと期待しています。

札幌 BBC

主の御名を賛美しつつ恵みを証させていただきます。コロナ禍で様々な行事を中断しましたが、2022年には待望の特別伝道集会を再開、本州の先生をお迎えできました。さらに2組の宣教師方、1組の学生伝道支援チームも来てくださり、決心者も与えられました。その中で昨年6月2日、50年間札幌教会を牧会してくださった青木亮一先生が入院中に急に主のもとに召されました。その2週間後に青木弥生先生が転倒で両手首骨折され、試練が重なりましたが、秋には無事に回復されました。先生ご夫妻への皆様さまのお祈りと励ましに心から感謝申し上げます。

また、コロナ禍の中で教会は主のあわれみと祝福をいただいています。信仰告白者、受浸者、転入会者が毎年加えられて感謝しています。昨年は4名の方が信仰告白され、聖書講座を熱心に受けられる方が起こされています。また季節の子ども会も再開され、日曜学校につながる親子も与えられています。また2022年

春から来られるゼンキ師ご夫妻の活躍により、年数の経った会堂も、寒くなる前に床板や壁（断熱材）の取り換えなどを自前リフォームで完成することができました。また英語集会、キッズイングリッシュなど新しい伝道の道も開かれています（現在ファロー帰国中で夏に札幌に戻ります）。また昨年6月より、恵庭恵み教会でのお働きを終えられた高橋昌史師ご夫妻とともに礼拝をおささげしています。このことも主のご計画と恵みとおぼえ、昨年12月に平安と一致のうちに教会メンバーにお迎えし感謝しています。教会は2026年に創立60周年を迎えます。今年から3か年、新しく加えられた方々と共に忠実にお仕えし、救われる方をさらに祈り求めていきます。長い間、継続して福音の種がまかれてきた地域にあって、収穫の主に期待しています。お祈りにおぼえてくだされば感謝です。

JBBF ニュース

●神学校

いつも神学校の働きのため、祈り、献げ物と神学校への重荷を頂いていることを心から感謝申し上げます。神学校の授業は、2月6日よりオンライン授業による補講から始まり、3月5日より対面授

業を予定しております。また、神学校は、今年、4月入学生第二期が始まります。神学校は、諸教会とこの世界の必要にお答えする献身者、伝道者が起こされることを祈っております。そこで、今年4月神学校入学を希望される兄弟のための第2回入学考査を2024年3月5日(火)に行います。入学希望者は、所属教会牧師の導きのもと入学考査希望を神学校に申し出てください。

校長 斎藤秀文

●バプテスト障がい者伝道協力会

2月23日総会セミナー 港北

10月14～16日 奥浜名湖

50回を記念して野の花フェローシップ

主筆 内藤俊宏

●理事会

「公告」

「JBBF 年次総会の案内」

2024年度 JBBF 総会を3/11(月)～12(火)に軽井沢の日本バプテスト聖書神学校を会場に開きます。

定例の議事は事前にオンラインアンケートにより行います。

詳細は送付した案内を参照ください。

理事長 安藤修司

発行

日本バプテスト・バイブル・フェローシップ理事会
長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉4696-27

担当理事 白石公章